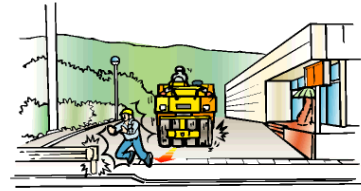


## ブレーキが故障していたタイヤローラーに作業員がひかれた

この災害は、運転者がロードローラーを運転し駐車場から歩道に出そうとしたとき、歩道に向かって傾斜していた駐車場の入り口でブレーキを踏んだが、制動が効かず、歩道で待機していた被災者をひき、被災者が死亡したものである。



運転者は、タイヤローラーを駐車場から作業場所へ移動させるために運転していたが、作業場所を隔てているカラーコーンを見て、この停車位置からでは上手くカーブが切れずカラーコーンにぶつかるかと判断した。そこで停車位置を変えようと、一旦ロードローラーを前方へ出して切返しをしようとした。

駐車場の入り口は歩道に向かって傾斜していたが、運転者が切返しのためロードローラーを前進させた時、この傾斜にかかりブレーキを踏んだが制動が効かず、歩道に出て投光器にぶつかり、被災者をひき、さらにガードレールのポストにぶつかって停車した。運転者は、被災者が立っているのを認めたが、回避できなかった。

この災害の原因としては、次のことが考えられる。

- 1 傾斜地を走行中にロードローラーのブレーキが効かず、暴走したこと
- 2 被災者の待機していた場所がローラーの走行方向前方で、適切でなかったこと
- 3 ロードローラーのブレーキの作業開始前点検が十分に行われていなかったこと

同種災害を防止するためには、次の対策を徹底する必要がある。

- 1 ブレーキホースが過去に傷つき、これがその後の使用によりオイルが漏れるような穴になったら、月次や始業時点検体制の充実が必要である
- 2 ブレーキホースの穴が第三者の故意によるものとなれば、機械関係の保管体制の強化が必要である。